

## 老年看護学実習（4単位 180時間）

### 実習目的

老年期にある対象を総合的に理解し、対象に応じた看護を実践できる知識・技術・態度を養う。

### 実習構成

実習名	単位数	対象学年	実習施設	
老年看護学実習Ⅰ	2単位 90時間	2年次	静岡済生会総合病院	1.7単位 75時間
			介護老人福祉施設 小鹿苑 小鹿なでしこ苑	0.3単位 15時間
			介護老人保健施設 星のしずく 池田の街	
老年看護学実習Ⅱ	2単位 90時間	3年次	静岡済生会総合病院	

### 老年看護学実習Ⅰ（2単位 90時間）

#### 1. 実習目標

##### 1) 実習目標

老年期の特徴を理解し、健康障害のある対象に必要な看護を考えられる能力を養う。

##### 2) 行動目標

##### 【施設実習】

- (1) 老年期の加齢に伴う変化について身体的、心理・精神的、社会的側面から情報収集し解釈する。
- (2) ケアチームの一員として、他者と協力して行動する。
- (3) 目的意識を持って、主体的に行動する。

##### 【病棟実習】

- (1) 看護問題を診断するのに必要な情報を収集する。
  - ①家族歴（キーパーソン・主介護者）・現病歴・生活史を述べる。
  - ②患者・家族が健康障害、入院、今後の生活についてどのように受け止めているか述べる。
  - ③入院前の生活環境、生活習慣について述べる。
- (2) 老年期の加齢に伴う身体機能・心理の変化、社会的背景の変化について述べる。
- (3) 看護問題となる事柄、治療、処置等により障害される基本的欲求の充足状況について述べる。
- (4) 患者・家族の強みを活用し、日常生活行為を維持するために効果的な援助を考え実施する。
- (5) セルフケアを障害するものを見極め、患者・家族のQOLの維持向上を目指して援助を行う。
- (6) 実施した援助に対する評価をし、必要時計画を修正する。

- (7) 対象・家族の生きてきた人生背景や価値観を尊重した態度をとる。
- (8) 医療チームの一員として、他者と協力して行動する。
- (9) 目的意識を持って、主体的に行動する。

## 2. 実習方法

- 1) 施設実習では、職員の指導のもと援助を行い、コミュニケーションを深める。
- 2) 病棟実習では、受け持ち患者を決定し、一連の看護過程を展開する。

## 3. 留意点

### 【施設実習】

- 1) 実習初日に、施設オリエンテーションを受ける。
- 2) 学生主体で、カンファレンスを行い、学習体験を共有し学びを深める。

### 【病棟実習】

- 1) 実習初日に、病棟オリエンテーションを受ける。
- 2) 「実習計画表」は、事前に一日の実習目標・計画を立案する。(担当教員に相談・報告する)  
当日、計画表に基づき実習を行い、目標達成状況を記載する。(病棟看護師に助言を受ける)
- 3) 学生主体で毎日カンファレンスを行い、学習体験を共有し学びを深める。中間カンファレンスで関連図・全体像を基に思考を整理する。
- 4) 実習期間中に、1日を限度(半日×2回)として記録のまとめの時間を設ける。
- 5) 実習終了後、実習での学びをレポートにまとめる。

## 老年看護学実習Ⅱ (2単位 90時間)

### 1. 実習目標

#### 1) 実習目標

- (1) 老年期の健康問題を理解し、対象に応じた看護を実践できる能力を養う。
- (2) 保健医療福祉との連携・協働を通して、医療施設における看護の役割と機能を理解できる。

#### 2) 行動目標

- (1) 老年期の加齢に伴う身体的、心理・精神的、社会的特徴の変化を記述する。
- (2) 対象の病理的状态について記述する。
- (3) 加齢に伴う変化と病理的状态が日常生活に及ぼす影響について記述する。
- (4) 老年期にある対象の日常生活における強みを解釈し記述する。
- (5) 退院後の生活を見越した援助の必要性について考えられる。
- (6) 対象の日常生活に及ぼす影響を考慮し、常在条件や病理的状态をふまえて看護問題を設定する。
- (7) 対象・家族のQOLの維持向上を目指し、対象の強みを活かした援助を計画する。
- (8) 対象の反応を捉えながら、個別性を考慮した援助を実施する。
- (9) 行った援助が対象にとって適切であったか、計画の評価・修正及び再立案をする。

- (10) 関連職種及び関係機関との連携を含めた継続的な支援体制について学び、継続看護の必要性が考えられる。
- (11) 対象及び家族と人間関係を築きながら、対象の生きてきた人生背景や価値観を尊重した関わりができる。
- (12) 医療チームの一員として、他者と協力して行動する。

## 2. 実習方法

受け持ち患者を決定し、一連の看護過程を展開する。

## 3. 留意点

- 1) 実習初日に、病棟オリエンテーションを受ける。
- 2) 「実習計画表」は、事前に一日の実習目標・計画を立案する。(担当教員に相談・報告する) 当日、計画表に基づき実習を行い、評価の欄に目標達成状況を記載する。(病棟看護師に助言を受ける。)
- 3) 学生主体で毎日カンファレンスを行い、学習体験を共有し学びを深める。中間カンファレンスで関連図・全体像を基に思考を整理する。実習終了日に終了カンファレンスを持つ。
- 4) 期間中に、1日を限度(半日×2回)として記録のまとめの時間を設ける。
- 5) 実習終了後、実習での学びをレポートにまとめる。